

令和2年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和2年 6月 3日（木曜日）

開 会 午後 1時30分

閉 会 午後 3時13分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. コロナウイルス対策に伴う町内事業者の現状と対策のあり方について
-

○出席委員（6名）

委員長	広地紀彰君	副委員長	森哲也君
委員	及川保君	委員	西田祐子君
委員	長谷川かおり君	委員	貳又聖規君

○欠席委員（1名）

委員 久保一美君

○説明のため出席した者の職氏名

経済振興課長	富川英孝君
経済振興課参事	白杵誠君
経済振興課主幹	鵜澤友寿君
経済振興課主幹	太田誠君

○職務のため出席した事務局職員

主 査	小野寺修男君
書 記	村上さやか君

◎開会の宣告

○委員長（広地紀彰君） ただいまより、産業厚生常任委員会所管事務調査を行います。

（午後 1時30分）

○委員長（広地紀彰君） 今回の所管事務調査はコロナウイルス対策に伴う町内事業者の現状と対策のあり方について、委員会としては緊急性を鑑み先行して町内の現状を把握するため、白老商業振興会並びに白老観光協会の代表の方を参考人としてお招きし、コロナウイルスによる現状をお伺いしてまいりました。また、先日21日には議会全員協議会にて、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の事業内容等の説明が町よりなされたところです。

本日は、前回までに委員会で調査した現状把握や町の新型コロナウイルス感染症対策事業及び今後の施策等を踏まえ、商業観光分野を所管されております経済振興課より、町で押さえている新型コロナウイルス感染症の影響や、その対応による町内経済の状況や今後のあり方についてお話を伺ってまいりたいと考えております。国の第2次補正予算の概要も見えてきたところでもありますし、今後に向けてということで委員各位からの忌憚のない議論をお願いしたいと思います。

経済振興課より、富川課長、臼杵参事、鶴澤主幹、太田主幹が出席されております。

それでは早速、経済振興課より説明をお願いいたします。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 産業厚生常任委員会所管事務調査の開催に当たりまして、先般5月21日の全員協議会におきましては、臨時交付金の関係、経済対策につきまして様々ご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。改めて内容等精査しまして6月会議に上程させていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

早速ではございますけれども、本日の調査事項コロナウイルス対策に伴う町内事業者の現状と対策のあり方についてということで、私からご説明させていただきたいと思っております。

町内の経済状況についてでございます。町内において売上げ等の状況について我々も個別に聞き取り調査等々行いまして一定程度の把握を行っております。所管という形になりますけれども、特に影響が大ききところと申しますか、これは事業主さんは少ないのですけれども、コロナウイルスの関係で売上げがぐんと落ちているというところは工芸品をされている方、バス事業者の方については相当なダメージがあったかと思っております。先般、小規模緊急経営支援事業をさせていただいておりますけれども、飲食・宿泊の部分について特に飲食業については休業要請に基づいて、あるいは独自にということも含めてゴールデンウィーク中も閉鎖をして、なお短時間営業などもされているということで影響は大きいかと思っております。宿泊については町内は大きく二分されるようでありまして、やはりインバウンドに対してある程度依存していた宿泊業については相当なダメージがあるということ。また国内客と申しますか、そのような方についてもソーシャルディスタンスの関係も含めまして、旅館などでは複数名で泊まるという従来のスタイルかと思っておりますけれども、シングルユースにてゆったりと距離を取りながらの宿泊対応をしているということも伺っているところでございます。

建設業については、現状大きな影響は出ていないという言い方をされておりますけれども、資材の確保はやはり輸入製品が多いので、そのような部分で今後資材確保が困難になったり、公共事業ですとかあらゆる事業発注が遅れたり停滞することによっての資金繰りの悪化の懸念があると伺っているところでございます。

立地企業については、我々も誘致していただいている企業にも聞き取りを行ってございます。23社あるのですが、10社強から回答をいただいた内容でやはり売上げ、資材、原材料の調達、経営の悪化というのが上位になってございます。売上げの減少については8社の回答をいただき、2社で50%以上売上げが下がった、3社で20%以上落ちたと。売上げに変化がないというのが3社で、8社中5社が20%以上何らかの影響を受けているということでございます。

また、企業の資金繰りにつきましては様々な無利子無担保の融資が出ていますが、融資については回答いただきました10社中、既に融資を受けたというのが1社、今後活用したい、検討中というのが5社の計6社、内部留保で対応できるというのが4社となっております。そういった中で町内の経済状況、商工業者を中心にある程度の聞き取りを行って今の報告をさせていただいたということになります。

それから、観光入込みの関係から見てみますと、ご承知かと思っておりますけれども、令和元年度につきましては159万6,871人と、前年度に比べて9万1,000人強が増加、率としては6.1%の増となっております。この割合といたしましては、宿泊が1万7,660人増えて20.9%と宿泊が多かったと思っております。日帰りについては7万3,807人ということですので人数としては多いこととなりますけれども、5.2%の増ということですので、工事の関係も含め宿泊でのご利用いただいた部分が観光入込にも反映されているのかと思っております。工事だけではなくて虎杖浜地区でもイベントを開催するなど、それぞれの事業所の営業努力も当然あったかと考えております。

この中でいいますと、虎杖浜地区で宿泊が非常に伸びているという状況にあります。白老地区についても宿泊は一定程度堅調に動いていたかというところで、飲食・小売りの部分が日帰り全体で7万3,000人増えているうちの、白老地区で飲食小売りが5万9,000人強増えています。やはり創業支援などの部分で新規で頑張らせていただいている事業者の皆さんの努力が反映されているところがあるのかと思っております。これが令和元年度の観光の状況でございます。アイヌ民族博物館がなくなって、非常に心配されているところでありましたが、平成30年度よりも若干伸長したということで、これは事業者の皆さんの努力、ウポポイへの関心の高さと共にあったのかと捉えているところでございます。

しかしながら、コロナウイルスの関係で令和2年1月から3月については対前年同時期比、3か月で約4万人減っております。特に3月で約3万人減ってコロナウイルスの影響が3月以降如実に出てきたかと思っております。このような状況からも町内の経済状況、それぞれの商工業者、立地企業、観光の状況を含めて当然厳しい状態であろうと思っております。

そういった中で、経済で支援金は国の支援金も当然ありますし、町としても第1弾、第2弾とこれまで打ってきたところであります。それぞれの金融機関の活用状況でセーフティネットの活用状況で申しますと、50件超の事業所さんが活用されております。そういった中では4号というのが

20%以上の減少で30件弱です。5号というのが10%以上の売上げ減少、これは5件程度です。危機関連保証が15%以上の減少で認定できるというところで、これが20件強の約60件という状況になっております。

セーフティネットを活用されて、今言いましたように20%、10%、15%とそれぞれの分類がございます。平均しますと41.48%の減少が直近1か月であり、向こう3か月を含めても38%強の減少見込みでありますので、先般の全員協議会でも39%程度ということでお話をさせていただきましたと思いますが、やはり前年度に比べ4割くらいは平均して落ちているのかということで、当然セーフティネットの活用をしているところに限られてきますので、割合は深掘りになるかと思っておりますが、活用されているところについてはそのような状況にあるということになってございます。

そうした中で、町の対策のあり方ということで先ほども触れさせていただきましたが、令和元年度に3月26日の会議の中で保証料の給付金に予算を100万円頂戴しました。また、第2弾といたしまして去る4月30日に中小企業等緊急経営支援事業、それから小規模事業者持続化補助金支援事業ということで、それぞれ予算額としては2,051万円、62万5,000円頂戴しております。また、第3弾の予定といたしましては先般5月21日の全員協議会でご説明をさせていただきましたが、経済対策の相談サポート、テイクアウト等支援事業、小規模事業者等支援事業、プレミアム商品券発行事業というような経済対策としては大きく4項目、事業として6月12日の議案提案の中で上程させていただければと考えているところでございます。この後、今見えている中では第3弾までの経済対策を我々も講じてきましたが、お配りした資料の中でも第4弾以降ということで5月25日の北海道の緊急事態宣言解除により、それを受けて自粛期から回復期を視野に入れていかなければならないという中で、第3弾までは緊急的な支援、あるいは地域経済を立て直すための支援、その日を過ごしていくための支援というような近視眼的な支援だったかと思うのですが、第4弾以降は地域内経済を回すということも含めて町外のお客様を呼び込む事業・施策を展開していかなければいけないという意味では広域的持続的展開に資する事業について検討を加えてまいりたいと思っております。

そうした中で、先般5月27日に閣議決定されておりますが国の第2次補正がございまして。コロナウイルス関係につきまして我々も所管する中であっては、厚生労働省の関係あるいは経済産業省の関係、それと内閣府の地方創生臨時交付金があるかと思っております。それぞれ厚生労働省については雇用関係の支援策、雇用調整助成金の拡充ですとか休業支援金の創設等が盛り込まれています。それから生活の支援ですと、個人向けの緊急小口資金と生活困窮者への支援の強化が盛り込まれている状況です。

経済産業省の関係でいきますと、資金繰りの関係、持続化給付金の対象範囲の拡大、緩和といったものがあるのと様々な部分から声をいただいておりますけれども家賃の支援です。固定費という中では家賃支援給付金ということで、国でも事業として措置されることになってございます。それから持続化補助金も拡充といいますか特例という形になっているということもございます。そのほかもろもろありますけれども、こちらについては順次ご説明などの機会をいただければと思います。地方創生臨時交付金の部分につきましては先ほども申し上げましたが、第4弾の部分の核となる財

源かと思っております。国においては当初の1兆円から、今回は2兆円という形で大幅に拡充されているという状況になってございます。1兆円の予算に対して白老町に対しては1億900万円強がきておりますので2兆円になったときに単純にいいますと倍ということであろうかと思いますが、そこまではいかないのではないかとこの状況もありますのでそこは企画課の担当となります。この辺の詳細な状況はまだ手元にはない状況ですのでこれ以上のことは申し上げられないかと思っております。しかしながら、我々といたしましても地域経済の回復を目指して、あるいは持続的な発展活動ができるようなものを事業展開できればいいかと思っております。簡単ではございますが、私からの説明とさせていただきます。

○委員長（広地紀彰君） まずは、経済振興課の皆様と共に議論をさせていただきたいと考えております。その後、退席を願い、委員会としてのまとめの中で本日の討議を踏まえた形での意見を再聴取させていただいて、最終的な意見にまとめていきたいという流れで考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、経済振興課の皆様との質疑をお受けしたいと思えます。

質疑のあります方はどうぞ。

及川委員。

○委員（及川 保君） 課長から第3弾までの取組、これには7つの事業があるのですが、第1弾は3月26日に議会を通りました。保証料についてはあまり利用者がなかったという話だったのですが、第1弾、第2弾、第3弾はこれからですが進捗状況をお聞きしたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 進捗状況でございます。3月26日に補正させていただきまして、繰越しという形で本年度させていただきます。保証料の関係につきましては合計で6件ございまして、全体では50万9,570円の保証料補給を行っているところでございます。内訳といたしましては基本的に上限10万円を使っているのが5件、それと9,570円が1件です。保証料借入れの額によりますので、そのような状況になってございます。

第2弾ということで中小企業等緊急経営支援事業につきましては、昨日まで57件、合計740万円の支援をさせていただいている状況でございます。基本的には飲食、宿泊、観光・交通事業の部分でございます。その内訳といたしましては飲食業43件、宿泊業が12件、交通事業が2件となっております。法人、個人の内訳ということになりますと法人が17事業者、個人が40事業者です。今回の部分については商工会をお願いしているところでありますが、会員、非会員の別でいいますと会員が33事業者、非会員が24事業者という活用状況、支援状況になってございます。補助金自体の予算につきましては1,970万円を頂戴しておりますので、現在まで740万円支援したということで、予算の残額といたしましては1,230万円まだ枠があるという状況になってございます。

それから、小規模事業者の持続化補助金の関係はまだ国の補助事業の決定とか、そのような状況がありますので、まだしっかりと支援しているという状況にはなっておりませんが、基本的には1期の募集で2件ございまして、2期が6月5日までの申請でそこに対しては3件です。これがそれぞれ国の交付決定を受けて対象となって、我々が上乗せをするということになりますと5件となり

ます。予算としては10件分の62万5,000円を頂戴していますので、現在使用見込みなのは31万2,500円になってございます。これまでの事業に対しての現状の報告は以上でございます。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 今回の国の支援事業は当初予算の中でも2,000万円とか、51万円とか、小規模事業者持続化給付金については62万円とか、金額的には多めに見積もっているのですが、逆にもう少し何か私は様々な形で支援を求めてくる事業者が多いのではないかと考えていたのです。今お聞きするとそのような状況ではなくて、申込みはしたが該当しなかったとか、このような事例がなかったのかどうか、この辺りが非常に気になる場所です。このような非常事態であるのですから、町内の事業者は満遍なく経営が持続されるような状況をつくっていく責務が町にはあると私は思っているのです。その辺りにおいての状況はどのように捉えていますか。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 交付対象外というか、申請があつて今回の該当にならなかった部分については7件ございます。そういった中では、今回は飲食、宿泊、交通事業でございましたので、事業が異なるという部分がほとんどです。そういったものも含めまして金額の多寡については様々なご意見を頂戴しておりますが、6月の上程の中にあつては飲食、宿泊、交通事業以外の皆さんにも支援できるような形で予算は上程させていただきたいと思つている場所です。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 実はある事業者の方から今回対象にならなかつたと、多分間違いないだろうと彼は話してました。全体的な経済支援ですから、飲食、宿泊、交通事業の部分だけではなく、町内全体の事業者に対する今回のコロナ対策支援としてこれは間違いないだろうという回答をしているのです。ここで事業者の話をするので1社しかないのが萩野自動車学校が長期間にわたって休んでいる状況の中でどのような支援対策を取ってくれるのかという話があつたものですから、議会本会議も開かれていないため、どのような状況かと思つてお聞きしたのです。漏れが間違いないかと考えていいのか、その辺りをお聞きしたいと思つます。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 漏れないというようなことは、はっきりとは申し上げられないと思つておりますが、基本的に今回、6月に上程させていただく内容といたしましては小規模事業者プラス休業要請を、自動車学校などに休業要請があつたところになりますので、そこについては対象にしたいということで制度設計をしていることになってございます。原則は小規模事業者ということで事業所の人数5人以下ですとか、そのような部分を対象に考えているのですが、休業要請になっている部分につきましては、中小といいますか20人以下でそのような部分を対象にするということで考えております。今この場で自動車学校が対象になる、ならないというのはお答えさせていただくのが適当かどうかというのはありますけれども、基本的には前回対象にならなかつた小規模事業者と休業要請に基づいて売上げが当然に無くなるようなところを広く支援できるような形で制度は考えてきたという場所です。

○委員長（広地紀彰君） 及川委員。

○委員（及川 保君） 分かったのですが、今の課長の答弁だと絶対とは言えないという言い方をしているのです。私が先ほど申し上げたように、ここはきちんとそういった休業要請を受けた中で実施しているわけです。そこはまちとしてきちんと対応するような姿勢を示さなければいけないと私は思うのですが、その辺りの考え方を伺います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 言葉の使い方でも語弊があれば申し訳なく思います。基本的にはそういった休業要請をされて困難な状況になっている事業者に支援が当たるような制度設計として考えているということでございます。

○委員長（広地紀彰君） 暫時休憩といたします。

休憩 午後 1時56分

再開 午後 1時57分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じまして、会議を再開いたします。

ほかの委員の質疑をお願いいたします。

貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 第3弾の経済対策でプレミアム付商品券発行事業、7,000円で購入いただいた1万円分のと、3,000円を8,000冊というお話で、これは幅広く活用いただくために7,000円も出して購入できるご家庭が白老町にいくらあるかといっても厳しい状況であるので、3,000円を全世帯に配るべきだという意見を出したのですが、ワンクッション会議等があればいいのですが、それが無い状況なので、その辺の検討状況をお知らせいただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） これは全員協議会でもご意見を頂戴いたしまして、3,000円の食事クーポンを全世帯に配るべきだというお話がございました。現在のところではいいですと、基本的には前回お示しした内容で進めさせていただきたいと思っております。我々としては経済対策という部分で考えますと3,000円のクーポンを皆さんに配って終わりということではなく、それに対しての波及効果、規模、設定金額の是非というのはいろいろあるかと思うのですけれど、プレミアム分があることによって一定程度皆さんに町内でお金を落としていただくような仕組みを期待しているということでございます。そういった中では基本的には7,000円で買っていて、1万円分の経済効果を町内に落としていただければということです。これが8,000冊ということになりますので、単純計算ですが8,000万円です。3,000円のクーポンで配っておそらくは何かしら使われるのでしょけれども、単純に我々の施策として考えたときには3,000円配って3,000円使ってもらったとなりますと、全世帯ということになって金額的には実数としては増えるかもしれませんが全世帯は9,407件です。それに3,000円だけが乗っていくと約2,700万円なものですから、それよりも経済振興課という考え方で申しますと、やはり波及効果を高めていきたいと考えているものです。そのような中では少しご無理をかけるかもしれませんがご購入をいただいてという形に思っているところでございます。

少々福祉的な視点で申し上げますと、子供がゼロ歳から18歳までのご家庭には全体の資料で1,521

世帯、実際に今回上程する際には多少数字が動くと思いますが、1,500強のご家庭に1万円の商品券をお届けさせていただきます。合わせて約1億円の経済効果が出るかと思っております。現在の検討状況では大変申し訳ないのですが、前回お示した内容とほぼ同様の内容で考えております。前回は飲食の部分で500円にしておりますが、その特定の部分を1,000円と少し広げて飲食ですとか、温泉だとかでも使える部分でいうと、最初に支援させていただいた部分のきっかけになるように1,000円を限定にして、9,000円はフリーで使っていただく内容で検討を進めているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 貳又委員。

○委員（貳又聖規君） 考え方は分かりました。これについては6月会議の中でもいろいろ質問させていただきたいと思っております。先ほど来、経済対策、これから回復期では町外から呼び込む策というお話もありました。地産地費を考えると町民の方が町内で消費するところを重要視すべきかと思っておりますので、それに対して町外というところではなくて、町内をターゲットとした展開も必要なのかと思っておりますので、そのようなことも含めながら次の第4弾の検討をいただければと思います。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 今いただいた意見につきまして貴重な意見だと思いますので、事業検討に当たっては尊重させていただきたいと思っております。おそらく日本国内が、逆に言うとほかの地域への移動を敬遠する可能性があると思うのです。回復期には呼び込みたいと言っているけれども、個人同士が警戒し合ってなかなか足が向かないということになりますと、古い形になりますけれども内需拡大ではないですが、町内で消費できる活動をしていく視点も非常に重要かと思っております。双方向といいますか、ありとあらゆる方策を考えて地域の経済を振興してまいりたいと思っておりますのでございます。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の質疑をお願いいたします。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 第4弾の事業内容については今後の検討ということですが、1点確認したいのは第3弾が6月12日上程予定で、第4弾の上程予定はいつ頃になるのか、その辺のスケジュールを伺います。第4弾に対して町外のお客様を呼び込むというお話がありましたけれど、私がずっと気になっているのは駅北の広場のイベントを予定されていたと思いますが、そのイベントの今後の在り方についてです。今後は完全に中止してしまうのか、北海道のガイドラインにある程度出ていますので、しっかり対策した上で実施していくことが大事だと思っておりましたので今後のイベントの状況の考えをお伺いいたします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） まず1点、第4弾はいつ頃になるかということですが通常補正予算でまいりますと9月会議の上程があるかと思っております。ただ、今回の場合5月27日に閣議決定されて、先般の5月21日の全員協議会でもご説明させていただきましたが、これに続いて国の補正の第2弾に対する事業計画というのが、それまでいとまはないのではないかと思います。もしかすると7月ですとか、8月ですとかいわゆる臨時議会といいますか、通年議会ですので、3、6、9、12月の定例会を待たずにご提案をさせていただくという場面は十分想像されるかと思っております。

います。スケジュールについてはまだ国からも我々に下りてきていないため、いつまで出すだとかはちょっと見えません。ここでの答えはこの程度にとどめさせていただきたいと思います。

それから駅北広場のイベントの関係については我々も大変憂慮しております、やはり様々な面でウポポイと連動してスタートを切るといふこと想定しておりましたので、ウポポイの開業を見据えた中でロングランイベントについては可能な範囲でやっていきたいと思っています。新年度すぐに契約をして予定どおり進捗できたならば、しっかりと事業はこなしたかと思うのですが、1か月、2か月、事業が後ろにずれております。基本的には屋外イベントとなりますので、実施時期も逆に制限を受けるという可能性がございます。また、いつ始まるか分からないため、事業者の参画に当たっても準備の部分にも時間を要することが十分に予想されます。もしかすると最初は手弁的な部分で実施するかもしれませんし、もしくは委託事業者中心にある程度瞬時に対応していただいて一定程度の形にはなるのかと思っておりますが、その辺も今協議中でございます。できるだけ早くどのような方向と内容で実施するといふものをお示ししたいと思いますが、中止だとかという部分は考えておりません。時間的な状況などを考えますと、規模の縮小や期間の短縮は十分に想定されるかと思いますが、なるべくその中でも賑わいの創出ができるように努めてまいりたいと考えます。また、8月くらいまでは収容の50%という部分が制限としてありますので、そういった中でどのような方法ができるか、感染予防対策についてもしっかりと配慮しながら検討を進めてまいりたいと今考えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の質疑をお願いいたします。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 先ほど、売上げに関する個別の聞き取りで影響が一番大きかったところは工芸品関係とバス事業所だということなのですが、工芸品関係といいますと木彫りをしている方などは、白老町を支えてきて高齢になっている方がたくさんいらっしゃるのです。そういう中で、今回第1弾の町からの給付金の対象ではなかったということで気落ちされている方もいらっしゃいますし、持続化給付金で対象になるのだけれど、いろいろな制度がありすぎてもらえるはずなのにももらえない。借りるものだったら返すめどがつかないから手続きにいかないとか、そのような方がたくさんいらっしゃったのです。商工会のホームページも見ましたら、持続化給付金の手伝いも今週から申込みで来週から始まります。そのようなこともホームページを見る方は分かるのですけれども、携帯電話を持っていてもスマートフォンを持っていない方がたくさんいらっしゃって、そのような方のフォローやこれだけ聞き取り等もしているのであれば、こちらから何か発信して白老町を支えてきた方々に対して申請までの手続きの道のりというか、そのようなものを示す、町としての方向性、姿勢というのはないのでしょうか。そこをお聞きします。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 工芸品の関係については、個人でされていて売上げが全くなくなってしまつと、収入がゼロに近い状況であるというのは聞いております。当初、4月30日で議決いただきました緊急支援事業は飲食、宿泊、交通事業に業種を限定して速やかに支援するということで、先ほどの回答と重複いたしますが、6月の上程では第1弾から漏れたところに、できるだけ広い範囲で支援できる形の部分については制度として考えてきたところであります。

それから、申請のサポートについてです。正直に言いますと、日々我々もどのような制度が出てきてとか、あらゆる省庁の確認をしていくということではなかなか大変な状況だと思っています。そういう中で、白老町商工会がいち早く6月1日から受付を開始して8日から予約制で対応するというのでやっています。現在のものは商工会の会員向けということでございましたので、今回6月に補正させていただいて、それ以外の皆様にもしっかりと周知を図って門戸を広げ、サポートできる体制はつくってまいりたいと思っています。対象が限定されているためご迷惑をおかけしているような状況でありますけれども、町で予算を取らせていただいた際にはしっかりとその辺もケアできるような形で進めてまいりたいと考えているところでございます。

○委員長（広地紀彰君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） 説明を聞いて大体分かったのですが、対象になるのかどうか分からないのですが、今回飲食店とかお小屋でお客さんに来ていただかなければ商売が成り立ちません。その対策としていろいろ取り組んでいらっしゃると思うのですが、そのようなものに対しての店舗の改修などの意見はなかったのでしょうか。というのは、これは結構大きな問題だと思うのです。テレビなどを見ていると中には体温計を設置してみたり、お客様と直接触れ合わないようにお店なども改造したりしているのを見ていると、白老町はどのような状況になっているのかと思うのです。

もう一つ、今回のコロナウイルスのことで、全国的に緊急でふるさと納税をお願いしますということで、2割、3割多いところでは4割くらい商品を安くしています。町としてはどのような対応を考えていらっしゃるのでしょうか。もし考えているのなら私は大至急実行したほうが良いと思ったので、聞いてみたいと思います。

3点目です。札幌の方に来ていただかないことには北海道の経済は回っていかないのです。本州から来ていただくまでにはちょっと時間がかかるかと思うものですから、そのようになってきたときにコロナウイルスに感染するのではないかとこのお小屋もそうだと思うのですが、白老町で1番目の感染者にはなりたくないのです。みんな本当にそこが痛しかゆしとか切ないところです。何かイベントをするにしてもそのところを町としてきちんと対策できるよう、必要なものを買ってきて用意しなければ駄目なのではないかと思うのですが、その辺の考えはいかがなのでしょう。

○委員長（広地紀彰君） 富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 店舗の改修ですとかクラウドファンディングの関係、あるいは感染予防対策、そういった部分のご質問かと思いです。

まず、店舗の改修については感染予防対策ということで、独自の制度設計をしようと考えてはいたのですが、現時点で言いますと予算ですとか、事業としては上程までいかない状況です。それというのは小規模事業者の持続化補助金というのが62万5,000円というのがあるのですが、基本的にそういう部分は国の制度である程度賄えるという状況なのです。苫小牧市などでは3月に実施して10件ですぐに予算がなくなりました。基本的には独自で先に実施していますが、国の事業に乗ってくればということで結局国の事業なのです。使う事業者としては少し遠くなってしまうので、町であった方がいいだろうなという心情的な部分はあるのですが、そういうものの活用で屋上屋といえますか、そういったことも含めて検討はしたのですが、事業化まではいたらなかったという状況に

なってございます。

クラウドファンディングの関係につきましては、企画課が担当になりますので、そこまでの詰め合わせ云々ということはないかと思えます。やはり、商品の内容といったものの充実は常に努めているという、我々としてはそういう解釈、回答と思うのですけれども、今の段階でセットとかというのはしっかりとお答えできる内容ではないかと思えます。先頃、北海道内の話なのですが、各自治体向けにセット商品をつくってくれば、1,000円、2,000円、3,000円単位で北海道庁内に売ること可能ですとなっております。狭い範囲になってしまいますけれどもそのようなご案内も1日、2日前に来ておりますので、ふるさと納税と併せてそういった部分の活用も検討しながら、町外のお客様に経済を回していただく仕組みについては引き続き検討してまいりたいと思っています。

札幌から来る方の検温などの部分の導入で、これは公共施設全体を含めて検討はしているのですが煮詰まらず予算上程や事業化には至らなかったのが実態かと思っています。ただ、当然我々が所管するロングランイベントといった部分については、収容キャパシティについて制限はある中でも、感染予防対策については徹底してやってまいりたいと思っておりますので、事業の中ではそういった部分については十分配慮して進めていきたいと思っています。

○委員長（広地紀彰君） 西田委員。

○委員（西田祐子君） まず、店舗の改修などのことは早急に考えて、もし国の補助金を使えるものであれば国のそのような助成金があるというのは、町内の事業者の方たちは知らないのではないかと思うのです。苫小牧市はその点について賢いと思うのは結局は国からくるお金なのだけれど、苫小牧市でもあるという形で誘っておいて、国のお金を使うような形をしているのではないかというところですか。そこは知恵の使いどころで、そのところを考えてうまくつくっていただければありがたいかと思えます。今回も全部で57件、740万円です。この方々もこのうちの3分の1だけでも今後の事業を展開していこうという気持ちの人たちがいると思うのです。その人たちのばねになるような情報を行政からきちんと早めにもっと流してほしいと思えます。

ふるさと納税なのですが、少々遅いと思えます。ふるさと納税に使いたいのは、もう一つは3点目のイベントの売店というのもあるのですが、白老町民の方々に牛肉を売りますといたら、多分担当課でいつも言っていると思うのですが、牛肉まつりのときばかりではなくて農協さんで売ったときだって大騒ぎです。白老町民はそのようなものを買に行くのが大好きです。私はそのようなことをもう少しきちんと計画してほしいと思うのです。私をはじめ、買っては親戚に贈ったり、お友達に贈ったり、白老町民はお金持ちなのかと思うくらいびっくりするほど買いに来ます。

今回10万円をいただいたのですから、このお金が無くならないうちに早急に企画して、このようなことを毎週とは言わなくても月に2回くらいインフォメーションセンターの隣で売店だけでもいいですから、今回は肉です、次は魚です、野菜を販売しますと積極的に店舗に声をかけて取り組んでほしいと思うのです。先ほども言いましたが、どこの店も最初には実施したくはないのです。でも、白老町が最初になればいいのです。何かあれば責任を取ろうというそのような気持ちでないと結局誰も声をかけられないのです。声をかけた人が責任を取らなければいけなくなってしまいうからです。そのところをぜひ考えていただきたいと思えます。

○委員長（広地紀彰君） 白杵経済振興課参事。

○**経済振興課参事（臼杵 誠君）** コロナウイルス感染対策の店舗の改修ですが、繰り返しのなるところもありますが、国の持続化給付金は4月に上乘せ補助ということで予算の議決をいただいた持続化補助金でそういったところがカバーできるというものが一つあります。そのほか、ちょうど昨日なのですが、北海道で新たな補助金ができまして持続化補助金は事業者が個別に取り組む場合にそれが当たります。北海道の事業で事業名が長いのですが、中小・小規模事業者感染予防対策等緊急支援事業という事業です。商工会もしくは商店街が、例えば商店街の共用施設なども含めて感染予防対策のために取り組むものについて4分の3を補助するというのでかなり高率の補助制度について、昨日募集を開始したところです。我々としてもコロナウイルス感染予防対策、改修も含めてそのようなことは必要だろうという問題意識も当然ながらあります。すぐに商工会と商業振興会に情報を流しながら、できるかどうかといったことで今検討し、調整・協議をしているところです。

いずれにいたしましても、情報が、国、北海道、白老町でいろいろな支援策が出ている中で町民の方にとっては分かりにくいのではないかといったご指摘があり、前回の全員協議会の中でも、4月30日の本会議の中でもそのようなご指摘を頂戴しておりました。各種の支援策について協議して概要を掲載したようなそのような資料をつくって、まずは正面玄関のところにコロナ対策の關係のいろいろな資料を置きまして、それとホームページで公表したところです。

ただ、インターネットを見られない方とかいろいろいらっしゃるの、どのようにしたら皆さんに情報が隅々まで届くか具体的なところについては手立てを考えたいと思っております。

○**委員長（広地紀彰君）** 富川経済振興課長。

○**経済振興課長（富川英孝君）** ふるさと納税については企画課にもこのような意見を伝えたいと思っておりますが、現段階でも例えば、東胆振の枠組みの中で詰め合わせを町内だけではないのですけれどもそういった部分を商品化しようというものですとか、インフォメーションセンターにも置く予定になっておりますが、レトルト食品というようなものも、原材料を町内でということであれば商品に加えることが可能かという検討が進められているところでございます。ふるさと納税については適宜といいますか、適切な時期に適切な商品をしっかり加えられるように努めてまいりたいということでご理解いただければと思います。

イベントの關係です。我々もできるだけ早く、大きくといいますか広く皆さんに来ていただいてイベントを開催したいと思っております。誰も感染の第1号にならないという前提で進めるのが一番いいかと思っておりますので、私の前職でしたが農林水産課でも牛肉まつりについて今年は断念せざるを得ませんでした。そういった肉牛の代替の祭りというのも開催したいという思いは当然あります。私たちも駅北のロングランイベントですとか、町の特産品、身近な商品など多くの皆さんに知っていただいたり、楽しんでいただいたりと様々なことを進めていきたいと思っております。その中であって、新型コロナウイルス感染症予防対策について徹底して進めていき、誰も感染者が出ないということを目指して頑張りたいと思っております。

○**委員長（広地紀彰君）** 西田委員。

○**委員（西田祐子君）** 最後に一言、臼杵参事がおっしゃっていた北海道の補助金、これは商工会とか商店街が4分の3の補助で実施するということですか。残りの4分の1は町の一般会計から出

してもいいと思うのです。個人の事業ではなくて、このようなきだからこそ町の一般会計から出して、ぜひ地元の商店街の方々、事業者の方々に頑張ってもらえるようなそのような政策を出していただければありがたいと思います。

○委員長（広地紀彰君） 意見ということによろしいですか。

全委員からの質疑が終わりました。

私から1点だけお伺いします。各委員は本当にそれぞれの立場で、様々な事業者や町民の方と関わり合いながらコロナウイルスの影響についてそれぞれの見解を踏まえながら、今回の質疑を交わされたということ承知しております。

私も、私たちのまちとして、どのような支援の在り方が必要なのかについてずっと考えてまいりました。これまでの、そして今後の取組についてきちんと整理されていると、その中で第1弾は3月26日に保証料の動きをしたと。私の知る範囲は札幌市の次でした。そのような取組をしてきたことは私としては評価させていただきたいと思っておりますが、今までは基本的に被害を受けた事業者に対して輸血的な一定の支援をしていくというような立ち位置で取組をされてこられています。

今後、プレミアム付商品券についてご意見を頂戴しましたし、店舗改修のお話もございました。各委員も今後、回復を強力に支援していくべきではないかといった質疑がありました。町としてもV字回復のフェーズということで、これからの経済の立て直しや再活性化に向けた取組も、既に上程予定の事業にもそのような観点が盛り込まれております。私たちのまちとして特に考えていかなければいけないのは、せっかく開業してくれるウポポイの開業に対して努力をしていく方々を応援していく事業が必要ではないかということです。実際に観光協会等ともお話をさせていただきまして、それぞれの事業者は大変な打撃を受けながらも前を向いています。例えば、商業振興会では統一した看板を作成して雰囲気盛り上げていきたいという思い、観光協会から旗をいつ上げるのかといったお話もございました。皆さんのこれからの輸血、止血で何とか持続できた、その先にあるものの中で私たち白老町が考えていかなければいけないことは、やはりウポポイに対して努力や応援していくべきではないかと考えますが、その考え方に対して見解のみ伺いたいと思います。

富川経済振興課長。

○経済振興課長（富川英孝君） 平成26年にウポポイが白老にできることが決まって、大小様々な事業所、町民の皆さんが期待されて、近年ですと創業支援事業で18件ほど我々も支援させていただいております。新たな努力、あるいは新たな取組、チャレンジが町内各所で起こっているかと思っております。そのような部分に対しては、おそらく今まで経験されていない方も思い切って飛び込んでおられるという状況もありますので、しっかりウポポイの開業後ということも見据えて我々も支援といたしますか、共に進んでまいりたいという思いでおります。

もともとコロナの関係は収束後のV字回復が目標とされておりました。一時はL字になってしまうのではないかと、下がってそのまま推移していくのではないかと、最近ですとU字回復ということで緩やかに時間がかかっても伸びていこうとしています。そのような形で我々にとってはウポポイがありますので、本来であればV字回復に向けてしっかりやっていくべきかと思っておりますが、そのような皆さんの思い、立場といったものもかみしめながら少なくともU字回復に向かって町民の皆さん

んと共に前に進んでいく、そのような施策を我々も検討していきたいですし、取り組んでいきたいと思っております。

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員からございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） 暫時、休憩いたします。

休憩 午後 2時31分

再開 午後 2時46分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じ、委員会を再開いたします。

それでは、前回までに開催した団体との懇談については前回確認をしました。委員各位から意見としていただいていた内容を、私のほうで箇条書きにて列記をしています。骨子として考えていってください。かいつまんで確認します。

まちとして、緊急性をもって固定費の負担軽減を図るべきだ。非正規雇用への支援、雇用需要のマッチングという意見をいただきました。公平性に配慮し、テイクアウトへの支援の在り方を検討すべきである。久保委員からテイクアウトを支援すべきだという意見がありましたが、単純にそれだけをしてしまうと出前をしている人たちとの部分がありましたので、支援の在り方ということで、これは各位から了解をいただきました。

町長が旗印となって宣伝広告などを通しまちの活性化をつくり出すべきだと。これまちの活性化をつくり出すべきというのは大変よい意見だと思っております。ウポポイが開業するからお客さんが来るということではないと、つくり出しましょうといった部分は重要な示唆があります。DI調査など業種ごとの実態把握を進めて実効性のある施策、これは西田委員からありました。最後に及川委員から、本当に危機のある事業者に対して確実に届く給付の在り方を考えるべきだという意見を最後にいただいていたのでその部分を踏まえまして。コロナ関連各種給付金が町内の経済循環につながるよう町内消費の仕組みをつくるべきだと。森副委員長からもそのようなお話をいただきましたし、本日も貳又委員から地産地費とまちで使えるといった部分の視点のご意見を頂戴しています。第1次産品が町内で活用できるような仕組みをつくるなど、町内産業が連携できる、支え合える仕組みを構築するべきだ。これは貳又委員からのご指摘がありました。安心できる相談窓口、今回あくまでも町内事業所の経済状況ということですので、本来であればもっと広く福祉的な部分を踏まえたいご意見だと思うのですが、今回の所管事務調査としては事業をやめようと思っているような方たちのケアといったような視点で少々整理させていただきました。

最後に、皆さんから意見をいただいていたのですが、これからもコロナは消えない。新型コロナウイルス感染症をかつてない危機と捉え、これまでにないスピード感を持って困窮した事業者確実に届く支援の在り方を追求実行すべきだと。これは、皆さんからいただいた意見をそのまま打ち込みました。これを若干精査して、本日、担当課等の質疑を受け、さらに皆さんは思いを新たにしたい感があると思いますので、本日も意見を伺いたいと思います。補足でよろしいですし、感想的な部分が入っても結構ですから、皆さんのご意見を頂戴したいと思います。

それでは、意見あります方はどうぞ。

長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 町長が旗印となって宣伝広告などを通しまちの活性化をつくり出すべきである、というところなのですが、今北海道スタイルが新聞、ニュース番組などで出ています。新たな白老町のスタイルというものを皆さんが知恵を絞り出して、このように取り組んでいます。それで地産地消、または近隣の市町村からも安心してお越しく下さいというスタイルを出していくべきではないか。そして、経済を活性化して感染対策をしながら経済を回していくという、そのような姿勢がこれから求められていくのではないかと思います。ここを実行していくべきだと思います。

○委員長（広地紀彰君） 実行していくという具体的な文言も盛り込まれております。今の件はよろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） ほかの委員の皆様から、ご意見ございますか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 雇用をやはり減少させない。まちづくりの根幹は雇用でありますから、一人親方であっても働くところがということでしょうか、そのようなものを今回のコロナウイルス対策で取り組んでいくというのは食い止めなければならぬと思いますので、きちんと雇用を守るという視点が大事だと思います。

○委員長（広地紀彰君） 雇用を守るという取組は国からも休業補償は出ていますけれども、事業者の努力に委ねられていて、実際休業補償の5分の4と充実はしたのですけれども、5分の1は事業者負担なのです。私は職業柄、宿泊事業者の取扱いが多いですけれども5分の1を負担するのむづかしいという声があります。それだけでなく毎月赤字が出ているのに、さらに数十万円持ち出して、このままだと雇用を守り切れないという部分があるので、そういった雇用に関する部分の意見は必要です。そういった観点での整理でよろしいですか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 白老町は企業誘致などいろいろと取り組んできました。やはり人材を流出させないということが大事ですので、雇用を守るための対策をきちんと考えてほしいと私は思います。仕事がないようなところに、これから先、日本中どこでもそうですが企業誘致とかいろいろしてきたけれど、「白老はいい」というところをきちんと守るという姿勢がないと駄目なのではないかと思うのです。

○委員長（広地紀彰君） まさにこれから様々なウポポイ関連の求人需要に含まれる中のまちですから、そういった部分は必要だと思います。そのようなことでよろしいですね。ほかにありますか。

貳又委員。

○委員（貳又聖規君） まちとして緊急性を持った固定費、入湯税、固定資産税の負担軽減を図るべきであります。これ行政のテクニカルな話を言うと税条例もありますし、上下水道料の条例もあります。条例規則の改正まで切り込めればいいのですが、時間的には今ちょっと難しいかという

気がしております。今、第4弾コロナによる臨時交付金の動きがあるのであれば、2月、3月からでもいいのですが、それに値する固定資産税、水道料その負担額分を交付金で補填するようなやり方はないのかと思います。税金や水道料金は納めていただくけれども、その分に対する補填をするということもありなのかという気がしております。そういった意味では負担軽減を図るべきというのは、町の立場からしてみると条例規則改正等と絡んできますから、臨時交付金の活用の方法があるかと思います。これでいくと、水道料金は3月、4月、5月とある小さな宿泊施設を仮定した場合に、その宿泊施設は水道料金を納めているわけです。もしかするとそれは納付猶予をしているのかもしれませんが。ただ、その部分はまともに納めていただきますけれども、3、4、5月の見合いの上下水道料金分を臨時交付金で補填するということで行きますと、まちとしては条例・規則の改正にメスを入れなくてもできるのではないですか。そのような活用の仕方が私はあるのではないかと思います。

○委員長（広地紀彰君） 暫時、休憩いたします。

休憩 午後 2時56分

再開 午後 2時59分

○委員長（広地紀彰君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

それでは、貳又委員からありましたとおり、固定費負担軽減を一つの例示として町税等々の見合いの給付をしていくといったことを検討していくべきだという意見がありました。例示していく中で緊急性を持ってという言葉が入っていますので、そういった部分のくくりの中で、そのような記載をするということによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、そのような形で記載することに決めます。

及川委員。

○委員（及川 保君） 今の固定費の部分について追加したいのは、まちの独自の施策はこれから永続して続いていくまちの経済、ここをしっかりと支えるという意識がなかなか見えてこないのです。先ほど少々申し上げたのですが、国の支援策を待っての通り一遍の対応なのです。第1弾から第3弾まで説明を受けたのですが、第3弾にしても先ほど森副委員長が聞かれたのですが全く日程は未定だという状況でした。そうではなく、町独自で率先して取り組まないと、定例会9月会議まで待たなければいけない状況も、先ほどの説明からいくと考えられるわけです。まちがしっかりと支えていくという姿勢を見せてほしいのです。先ほど言ったようなことにつながるのです。商工会でもそれを言っているのではないですか。町がこれをどのように説明、回答したか知りませんが、この辺りの固定費を重要視しているわけです。大部分は今のコロナの現状からすると大きな負担になっているわけです。それを解決する策をこの委員会がしっかりと示すという形に持って行ってほしいのです。

○委員長（広地紀彰君） まちが率先してということですか。

及川委員。

○委員（及川 保君） あまりお金がないからとか財政状況にあった対策という話になってしまう

と全く何もできないとなってしまうのです。倒れてしまってから支援しようとしても無理でしょう。

○委員長（広地紀彰君） ただいま6月に入り、このままの会議の流れで行けば9月会議までと言う、言葉としてございました。そういったものを待つのではなくて、まちが率先してこれまでにないスピード感を持って困窮した事業者に確実に届くような準備をするべきだと、そのような趣旨でよろしいでしょうか。やはり率先性です。ほかの委員の皆さんはよろしいですか。何度となく交わされてきた議論ですので、それについて異論はないかと思うのですが。逆に国を待ってという状況にはならない情勢ですから、9月まで待っていたら潰れてしまうということだと思います。まちは率先をして取り組んでいくべきだという文言を最後に記載ということでもよろしいですか。

西田委員。

○委員（西田祐子君） 先ほど申し上げましたが、感染予防対策として店舗の改修については国の持続化補助金があって、北海道からも中小企業の感染予防対策資金が出ていると、このようなものをきちんと使って足りない分は町が出すくらいの気持ちになってほしいと思います。先ほども及川委員がおっしゃっていましたが、倒産や廃業してしまったら税金を納めてくれるところがなくなってしまうのです。そのようなことを考えると、これはこの事業をしてもらうための資本金のようなものを町が出すのだという気持ちを持たないと事業ができなくなり、お客様が入らなくなったら意味がないわけですから、税金を納めてもらえるような店舗づくりを応援するという考え方で、町としてもお金を出すべきだと私は思うのです。

○委員長（広地紀彰君） 確かに、長谷川委員からも白老スタイルという話もありましたし、さらにはウポポイの開業を見据えた我がまちにとって、感染予防対策はまちづくり事業といってもいいくらい、これで町民の不安も解消していける部分にもつながってきます。感染予防にしっかり取り組んでいるまちなのだといった部分も、町外の方たちにとっても率先して感染予防対策に取り組むというのはまちの活力になる一翼にもなると、白老町らしさという部分にもつながりますので、先ほどの話にもつながりますのでこれについてはよろしいですね。必要であるとなれば、町が率先してこれも実行するといったご指摘だと思います。記載してよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、そのような記載は、白老町スタイルで実行していくべきだという文言を1つ残したいと思います。

森副委員長。

○副委員長（森 哲也君） 説明の冒頭に、各業種の売上げ状況などの説明があったのですがけれども、コロナの影響を把握するために一件、一件回ってどのような状況なのかというのを町が把握していくのは重要だと思います。これを機に町内事業者との連携ですとか、観光協会、商業振興会もそうですが相談窓口を開設してほしいという文言があるのです。役場が相談を待つのではなくて、相談に向向くことで建設業においても資材など、現在は影響がなくても今後は資材などで影響が考えられるということもありました。基本的に役場が率先して事業者の中に入って行って状況を把握するということが大事なのかと思いましたので、そこ努めるようにという文言も追加できたらと思います。

○委員長（広地紀彰君） やはり待っているだけではないと。自分から出向き実態把握に努めてき

らに連携を図っていく必要があると、そのような記載内容でよろしいでしょうか。今、森副委員長のご指摘のとおりで、例えば建設協会でも売上げにはあまり影響はないのです。外国人労働者が入ってきていません。ベトナムの労働者が本来なら来なければ駄目なのに今年いっぱい入ってこないだろうということで、そうなってしまったら今年の工事は取りにいけないのです。実際にあまり無理に取りに行っても仕事が回らなくなってしまいそうです。外国人研修生が今は欠かせない一つの労働力になりつつありますから、そのような部分はこれから出てくるはずなのです。ですから、D I 調査等々実態把握に努めるということも意見として記載がありますので、ただ単に相談に乗るだけではなくて出向いていくべきだと、そういった部分で実態把握に努めながら連携していくべきだといった文言を入れたいと思います。

及川委員。

○委員（及川 保君） 副委員長からもあったのですが、個人の大工さんもみんな困っているのです。本当に材料が入らないのです。それぞれの業界の皆さんは状況を把握していると思うのだけれど、大工さんも全然仕事ができない状況です。そのような状況が見られますので飲食業、宿泊業、いろいろな業種がありますが、これはやはり白老全体の業種として考えていかなければ本当に厳しい、やめざるを得ない状況になってしまうのです。その辺りをまちとして押さえているかどうかなのです。

○委員長（広地紀彰君） 経済が停滞している分、これからさらに玉突きのようにいろいろな業種にわたっている中で白老町全体の問題として捉えて、実態把握をさらに深めていく必要があるのではないかというご指摘かと思えます。全く異論はないかと思えますが、今のような観点でよろしいですか。まち全体の業種だけではなくて、もちろん業種ごとの実態把握は大事なのですが、まち全体の問題としてあらゆる業種に被害が及んでいるのではないかといった部分を、そのためにも出向いて行くという姿勢にもつながっていきますし、連携していくということにもつながっていきますので文言の整理は必要かと思えますが、趣旨としてそのような記載をしてよろしいでしょうか。〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） では、全体を通してご意見ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、前段の白老商業振興会並びに観光協会の現状・課題については、前回の所管事務調査で皆様に一定時間で精読いただいたと思えます。これをさらに精査をして、少し今回は簡潔にしていこうという意味です。そのような形でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（広地紀彰君） それでは、基本的にはこの中で文言の整理をさせていただきます。一通りの意見の聴取も終わりました。

では、今のご意見を追記することとし、報告書は正副委員長でまとめたいと思えます。6月8日、月曜日にファックスにて各委員の皆様へ報告書案をお示しし、校正等を願い、その後6月12日に全員配付をしたいと思えますがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（広地紀彰君） それでは、以上をもちまして産業厚生常任委員会を終了いたします。

（午後 3時13分）